

令和５年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 創立 80 年を超える歴史を持つ泉州地域の伝統校、普通科高校として、どんな社会でも揺るがない土台「心幹」を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら、自分の人生を、社会を豊かにできる一人前を育成する。
- 1）他者とより良い関係を築きながら、責任を持って役割を果たす自律・自立できる「人間力」を育成する。
- 2）基礎となる幅広い教養を身につけ、日常場面で活用できる「教養力」を育成する。
- 3）自己と向き合い、他者と協働しながら、粘り強く課題解決を図ることができる「協働的探究力」を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と学びの深化

- (1) 「わかる授業」を土台に、「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりをめざす。
- ア IMPT（泉-OHTSU Method プロジェクトチーム）を中心に、「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりの実践（単元の逆向き設計による本質的な問いをふまえた授業実践・観点別評価を踏まえた授業充実）を進める。
- イ SSPC（スマートスクールプロモーションコーディネーター）を中心に、1 人 1 台端末を活用した授業実践を進め、組織的に個別最適な学びと協働的な学びの充実を進める。
- (2) 教科・探究・トータルキャリアプラン・学校行事等におけるカリキュラムマネジメントを推進し、資質・能力（3 つのキー・コンピテンシーと 9 つのターゲット）の評価軸を組み入れた育成サイクルを充実させる。
- ※ 授業アンケートの平均点を令和 7 年度までに 3.25 以上にする。（R2：3.15、R3：3.22、R4：3.23）
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「1 人 1 台端末を効果的に活用」の肯定的回答を令和 7 年度までに 75%以上にする。（R4 新規:67%）
- ※ 学校教育自己診断「「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動」の肯定的回答を令和 7 年度までに生徒 75%・教職員 90%以上にする。（R4 新規:生徒 69%・教職員 82%）

2 「高い志」を育み、「将来の夢」を実現

- 3 年間を見通した志学、キャリア教育、人権教育を連動させた生徒育成プログラム（＝トータルキャリアプラン）を実行する。
- (1) 「総合的な探究の時間」をコアカリキュラムとして、他者との繋がりの中で「人間力」「教養力」「協働的探究力」を育成する。
- ア 生徒が自立心をもって自らの生き方を考え、アンテナを広く張って自ら問いを立てられる力を持ち、課題を解決できる力を育成する。
- イ 地域に根差し、地域課題の解決をめざす協働的・探究的な学びの充実に取り組む。
- (2) 進路目標を達成できる学力を 3 年間で育成する。
- ア 基礎学力の定着、進路実現をめざし、学年・教科・分掌間の連携を図り、放課後や長期休業中の講習・補習を充実させ、生徒が根気よく試行錯誤しながら学びを深められるよう支援する。
- (3) 生徒一人ひとりが希望する進路を実現するための組織的・計画的な進路指導を充実させる。
- ア 学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、生徒の進路実現を支援する。
- イ 学年・教科・分掌間の連携を図り、面接指導、奨学金説明会等、希望する進路に応じた支援を充実させる。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「総合的探究は協働的探究力を養うのに役立つ」肯定的回答を令和 7 年度までに 80%以上にする。（R2：64%、R3：64%（R2・3 は人生に役立つ）、R4：72%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「進路情報肯定率」を令和 7 年度までに 83%以上にする。（R2：80%、R3：81%、R4：82%、）
- ※ 3 年生 4 月当初の進学希望先調査を達成できた生徒の割合を令和 7 年度に 99%以上にする。（R2：97%、R3：98%、R4：98%）就職内定率 100%を維持する。

3 生徒の自己有用感と人権意識の向上

- (1) 生徒の規範意識を醸成させるとともに、個々の生徒への支援体制を充実させる。
- ア 自主的に規律を守り、自律心をもって行動する人をめざし、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
- イ 全教員がカウンセリングマインドを持って生徒指導にあたる。
- (2) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒自らが主体的に参加することで、生徒の自己有用感を高め、連帯意識や公共精神を培う。
- ア 行事や生徒会活動、部活動、ボランティア活動等を通じて、集団の中で主体的に他者と協働する力を育む。
- イ 1 年次から行事等を主体的に企画・立案・運営するよう支援し、向上心や協調性を高めるとともに、言語活用能力（コミュニケーション力やプレゼンテーション力）を育成し、チームで解決する力の向上を図る。
- (3) 生徒の人権尊重の意識を向上させ、多様性を尊重し、思いやりをもって共生できる力を育成する。
- ア いじめ・差別をしないさせない意識の醸成と集団づくりに努める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「生徒指導への満足度」を令和 7 年度までに 60%以上とする。（R2：57%、R3：54%、R4：55%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「学校行事への満足度」を令和 7 年度までに 86%以上とする。（文化祭/体育祭 R2：83%/－%、R3：86%/85%、R4：74%/80%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「人権を学ぶ機会」の肯定率を令和 7 年度まで 92%以上を維持する。（R2：87%、R3：92% R4：92%）

4 安全・安心を土台にした総合的な学校力の向上

- (1) 生徒が安全・安心に学校生活を過ごせる環境づくりを充実させる。
- ア 教育相談体制の一層の充実にむけて、保護者や関係機関との連携を強化する。教育相談・支援委員会、支援教育コーディネーターを中心に、生徒一人ひとりへの支援とサポート体制を充実させる。
- イ 保健・安全指導を徹底して、事故防止の取組みを進めるとともに、大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化を図る。
- ウ 個人情報の適正管理と個人情報保護の精神を徹底する。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「事件・災害発生時の行動の周知」の肯定率を令和 7 年度までに 80%以上にする。（R2：63%、R3：69%、R4：78%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒・保護者）「教育相談への満足度」を令和 7 年度までに生徒 65%・保護者 85%以上にする。（生徒/保護者 R2：61%/85%、R3：63%/81%、R4：64%/85%）
- (2) 校内組織・教職員集団づくり、働き方改革に向けた取組みを推進する。
- ア 学年主任間会議を活用し、生徒育成の教育課程の円滑な実施と内容の継承・充実につなげる。
- イ 教職員が主体的に教育活動ができる学校現場づくりを推進し、誰もが学校運営に向けた建設的な改善策や新たな取組みを提案できる教職員集団となるよう取り組む。
- ウ 教職員の新たな学びを育成する校内研修の充実と、校外研修への参加、校内共有を推進する。
- エ 教職員の多忙化解消に向け、業務の精選と校務運営の効率化を進める。
- ※ 学校教育自己診断（教員）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」を令和 7 年度まで 65%以上を維持する。（R2：56%、R3：66%、R4：76%）
- ※ 学校教育自己診断（教員）「経験の少ない教職員の育成」の肯定率を令和 7 年度まで 80%以上を維持する。（R2：69%、R3：72%、R4：94%）
- (3) 本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動の充実を図る。
- ア 中学校、保護者、教育関係者向けの情報発信と緊急時の情報発信を充実させる。
- イ 生徒体験型の中・高・大（専）等多様な主体との交流・連携を進め、本校の魅力を発信する場とする。
- ※ 学校説明会参加者アンケートの肯定的評価（中学生）を令和 7 年度まで 90%以上を維持する。（R2：95%、R3：89%、R4：93%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和５年 11 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【中期的目標の項目に沿って結果分析】 1 IMPT が推進する本校の「ねがい」に向けた教育活動の充実をめざし、ICT や 1 人 1 台端末を活用する授業の充実、授業内容の工夫、教科内での情報共有、学校全体での研修等により、授業充実が図られている。 ・「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動を行っている（生徒 69%⇒70% 保護者 82%⇒78% 教職員 82%⇒93%） ・情報機器の利用や体験的な授業の充実（生 69%⇒76%） ・1 人 1 台端末の活用（生 67%⇒83%） ・教え方に工夫している先生が多い（生 72%⇒74%） ・教育活動について日常的に話し合っている（教 94%⇒96%） 2 トータルキャリアプランを実行し、生徒の進路実現に尽力している。保護者の理解も得ている。総合的な探究の時間では地域連携の充実を図ったが、内容の精査が必要。 ・総合的な探究は協働的探究力を養う（生 72%⇒69%） ・進路の情報を知らせてくれる（生 82%⇒86%） ・将来の進路や生き方について考える機会がある（生 91%⇒87%） ・適切な進路指導を行っている（保 85%⇒86%） ・授業以外の講習は満足できる（生 71%⇒76%） 3 行事におけるルールの守り方、自由とけじめなど、生徒が理解して行動し盛りあげることができたこと、文化委員が何度も会議を行い、運営に参加したことで、行事の満足度が回復した。学校生活においては、規律が守られている。 ・生徒指導への満足度（生 55%⇒62%） ・相談できる（生 64%⇒70% 保 85%⇒86%） ・学校行事への満足度（生 体育祭 80%⇒85% 文化祭 74%⇒86%） 4 チーム学校が機能し、全体で生徒を支援する体制が充実している。教職員が各々の持ち場で力を発揮したり、また助言、協力しあうことで、働きやすい職場づくりができてきている。経験の少ない教職員の育成について全体で行えるよう手立てを考えたい。現在、教職員の多忙化の解消に業務の精選を行っているところ。HP 等を活用し、広報活動を充実させる。 ・人権について学ぶ機会がある（生 92%⇒90%） ・いじめなど困っていることに真剣に対応してくれる（生 78%⇒80%） ・適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担で、教職員が意欲的に取り組める環境にある（教 73%⇒82%） ・各種会議が教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効（教 76%⇒79%） ・気軽に相談できるような職場の人間関係（教 88%⇒96%） ・事故、災害等に適切な対処ができる役割分担の明確化（教 73%⇒89%） ・経験の少ない教職員の育成（教 94%⇒79%） ・広報活動の充実（教 75%⇒82%） ・HP をよく見る（生 17%⇒22% 保 34%⇒29%）	【第 1 回】令和 5 年 7 月 13 日（木） ・学校経営計画にある「働き方改革」について、学校より、大阪府全体で取り組んでいるところであり、育児や介護のある教員が安心して働ける職場環境にしたいという意見を伝え、賛同していただいた。 ・「就職」を選ぶ生徒は家庭の状況が理由なのかという質問に、そのような生徒もいるが、ほとんどの生徒が前向きに就職を選んでいると回答した。就職 100%実現を続けて行ってほしいという意見をいただいた。 ・スクールポリシーに子どもたちの意見を入れていく学校もあると聞いているが、との質問に、「本校は過去に生徒、保護者、教員、地域の人に「泉大津高校で育みたい力」 についてアンケートを取っている。その意見をスクールミッションやスクールポリシーに反映させている」と回答した。いろいろな意見が反映されてよいという意見をいただいた。 【第 2 回】令和 5 年 12 月 19 日（火） ・校則見直しについて、保護者の立場からご意見をいただいた。見た目より中身という考えが広がりつつある。節目できちんとできれば、良いのではないか。新しい時代に踏み出していく必要があるのではないか。 ・生徒としっかりと話をしていくべき。また企業が求める髪形や服装などを調べて、生徒と話を進めていくと良いのではないか。 ・授業見学後、今の授業にびっくりしている、ICT の活用について聞きたいとの質問に、授業において ICT を使ってスクリーンに授業内容を提示することはほとんどの先生が行っており、3 ～ 4 割程度の先生は積極的に生徒の 1 人 1 台端末を使って授業を行っていると回答。 ・1 人 1 台端末の活用として、現在は生徒たちから授業に関する質問をすることは特別な場合を除き普段は行っていないが、考えていく必要があるが、先生に直接面と向かって言える信頼づくりも大切であるという意見をいただいた。 【第 3 回】令和 6 年 3 月 15 日（金） ・令和 5 年度学校経営計画・学校評価の達成状況について ・令和 6 年度学校経営計画について ・泉大津高校が中学生に行きたい学校と思われる学校にするためにはどうすればよいか、意見交換を行った。 ・泉大津高校の「いいところ」ついて、「勇気」と「団結」をもって、先生たちが生徒たちと議論していくことが大事である。 ・「自分たちの意見を取りいれてくれる」＝「主役になれる」という環境づくりが必要だと思われる。それがロコミとなって中学生に伝わっていく。 ・高校生ががんばっているところを中学生に見てもらう機会づくりをする必要がある。生徒から意見が出てくれればなおよい。 ・中学生がどのようなところに興味を持っているかについて、リサーチを行う必要がある。 ・広報動画を作成する際、1 分程度で構成する。内容については生徒たち自身に考えさせることが大切である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R4 年度値〕	自己評価
1 確かな学力の育成と学びの深化	(1) 主体的・対話的で深い学びを育む授業づくり (2) 資質・能力（3つのキー・コンピテンシーと 9 つのターゲット）の評価軸を組み入れた育成サイクルの充実	(1) ア・IMPT（泉-OHTSU Method プロジェクトチーム）を中心に、「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業実践にかかる研修を行い、授業改善やパフォーマンス課題の実践をチームとして進め、校内で情報共有する イ・SSPC（スマートスクールプロモーションコーディネーター）を中心に、1 人 1 台端末を活用した授業実践にかかる研修を実施し、個別最適な学びと協働的な学びを充実させる ・好事例の共有、教材の共有等チームで取り組む (2) ア・生徒育成の教育課程（教科・探究の時間・トータルキャリアプラン・学校行事など）のカリキュラムマネジメントを推進する ・教職員すべてが「泉大津のねがい・ねらい」を意識した教育活動を行う ・資質・能力の評価軸を組み入れた育成サイクルの充実を推進し、PDCA サイクルをまわす	(1) ア・授業充実研修 2 回以上〔3 回〕 ・授業アンケート平均 3.24 以上〔3.23〕 ・研修の振り返りの共有 イ・自己診断（生徒）「1 人 1 台端末の活用」70%以上〔67%〕 ・1 人 1 台端末活用授業の公開授業を 2 回以上実施〔4 回〕 (2) ア・自己診断「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動を行っている。生徒 70% 教職員 85%〔生徒 69% 教職員 82%〕 ・IMPT・探究委員会・学年で振り返りを行う	(1) ア・授業充実研修を 7 月と 11 月の 2 回実施、どちらも 90%近い参加率。その他、3 回のミニ研修、座談会等実施（◎） ・授業アンケート平均 3.23（△） ・11 月のモデル授業の見学、教科別課題解決の工夫、生徒の学びについて共有、全教員で全体会の振り返りを共有した（○） イ・自己診断（生徒）「1 人 1 台端末の活用」83%（◎） ・授業充実研修全体検討会で、泉大津のねがい・ねらいを意識した授業実践に ICT や 1 人 1 台端末をどう活用するかを個人、グループで考えた。SSPC による研修を 3 回行った（○） (2) ア・自己診断「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動を行っている」生徒 70% 教職員 93%（◎） ・IMPT および探究委員会において振り返りを実施。授業や学級経営等では教職員の意識は高まっているが、探究においてもリンクできるようにしていく。また、3 年間を見通した計画を立てることで生徒への浸透を図り、生徒が学校を作っていく体制を整えていく（○）

府立泉大津高等学校

2 「高い志」を育み、「将来の夢」を実現	(1) 「総合的な探究の時間」をコアカリキュラムとして、他者との繋がりの中で「人間力」「教養力」「協働的探究力」を育成する (2)進路目標を達成できる学力を3年間で育成する (3)生徒一人ひとりが希望する進路を実現する為の組織的・計画的な進路指導	(1) ア・「総合的な探究の時間」を充実させ、生徒の問いだて力、課題解決能力を育て、自らの夢を描き、実現する力を育む イ・泉大津市をはじめとした地域課題の解決をめざす協働的・探究的な学びの充実をめざし、近隣関係機関との連携と内容の充実を図る ・3年間で系統立った総合探究を推進するため、効果検証を行う (2) ア・放課後や長期休業中の講習・補習の充実を図る イ・大学入試を意識した外部検定試験の挑戦を促し、合格をサポートする 英検、漢検、数検の受験者を支援する (3) ア・トータルキャリアプランを通じて、学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、生徒の進路実現の支援を行うとともに、1年生から探究等で進路についてしっかり考えさせる。 イ・学年・教科・分掌間の連携を図り、講習や面接指導等、希望する進路に応じた支援の充実で進路の実現を図る	(1) ア・自己診断(生徒)「総合的探究が協働的探究力を養うのに役立つ」75%以上〔72%〕 イ・1、2、3年生で「総合的探究」の内容の充実 ・探究委員会・学年主任間会議において検証の実施 (2) ア・自己診断(生徒)「講習満足度」72%以上〔71%〕 ・長期休業中講習参加者 30%以上〔14%〕 イ・模試や検定受検者への指導の実施 (3) ア・自己診断(生徒)「進路情報」肯定 83%以上〔82%〕 イ・3年4月段階の進路希望の実現 97%以上の維持〔97.9%〕、就職内定率 100%維持〔100%〕	(1) ア・自己診断(生徒)「総合的探究が協働的探究力を養うのに役立つ」69% (△) イ・1年：泉大津市秘書課の協力で近隣企業6社による商品開発の講話 2年：泉大津市と大阪大学との連携による「日本のSDGｓ」 3年：泉大津市と大阪大学と連携した地域探究。近隣大学、専門学校、企業等によるキャリア教育 と、3学年とも充実した探究活動を実施した (○) ・探究委員会・学年主任間会議において意見交流・振り返りを実施。何をどのように学ぶのか見通しを立てられるような授業計画を練り、教員が課題解決について考えるようにしていく (○) (2) ア・自己診断(生徒)「講習満足度」76%。(○) ・長期休業中講習参加者 19% (△) イ・生徒への呼びかけにより模試受験者が昨年比3倍に増加。また、「文章入力スピード認定試験(日本語)」に2級2名、準2級4名、3級1名が受験、全員合格した (○) (3) ア・自己診断(生徒)「進路情報」肯定 86%(○) イ・3年4月段階の進路希望の実現 97%、就職内定率 100%
	(1) 生徒の規範意識を醸成、個々の生徒への支援体制の充実 (2) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒自らが主体的に参加することで、生徒の自己有用感を高め、連帯意識や公共精神を培う (3)生徒の人権尊重の意識を向上させ、多様性を尊重し、思いやりをもって共生できる力を育成する	(1) ア・身だしなみの意義を理解し、全校一致の目標(頭髪・制服等)を生徒と共有し、規範意識を醸成する ・問題行動等を生徒自らが考え、学校生活を落ちついた中で過ごせる支援を実施する ・自転車通学者のマナー指導での警察・外部と連携と体験的な交通安全講習会を実施する ・全生徒への「薬物乱用防止教室」の取組みを、外部と連携して実施する (2) ア・体育祭、文化祭を生徒会が主体的に運営できるよう支援する ・部活動の活性化を図り、部活動加入率を上げる ・生徒が自主的清掃活動に取り組むよう保健部が中心となって啓発活動を行う ・さまざまなボランティア活動情報を提供し、参加生徒を募り参加させることで、自尊感情を高め、他者尊重の精神の涵養から社会に貢献できる人材育成を図る イ・1年次から行事等を主体的に企画・立案・運営するよう支援し、向上心や協調性を高めるとともに、言語活用能力(コミュニケーション力やプレゼンテーション力)を育成し、チームで解決する力の向上を図る ・生徒会・各クラス委員が連携し、教員とともに、「あいさつ運動」を推進し、コミュニケーション力をあげる (3) ア・いじめ・差別をしないさせない意識の醸成と集団づくりに向けて、人権学習を充実させる ・生徒の心に響く人権講演会を企画する	(1) ア・年間遅刻件数 2500 件以下の維持〔1853 件〕 ・体験的交通安全講習会 1 回以上〔1 回〕 ・「薬物乱用防止教室」の取組み実施 1 回以上〔1 回〕 ・自己診断(生徒)「生徒指導への満足度」肯定 58%以上〔55%〕 (2) ア・自己診断(生徒)「生徒会活動」肯定率 65%以上〔59%〕 ・自己診断(生徒)「行事の満足度」文化祭・体育祭 85%以上〔74・80%〕 ・1年生の部活動加入率 50%以上〔38%〕 ・小・中学校との交流を5クラブ、15 回以上〔4クラブ、9回〕 ・自己診断(生徒)「清掃活動を積極的に行う」80%維持〔81%〕 ・ボランティア参加生徒5事業、50 名以上を維持〔5事業、150 名〕 イ・学年主任間会議において検証の実施 ・自己診断(生徒)「高校に入ってからあいさつするようになった」を 78%以上〔76%〕 (3) ア・自己診断(生徒)「人権を学ぶ機会ある」90%維持〔92%〕 ・自己診断(生徒)「学校はいじめに真剣に対応」78%以上〔78%〕 ・人権講演会 1 回以上〔1 回〕	(1) ア・年間遅刻件数 1876 件 (○) ・体験的交通安全講習会 2 回。泉大津警察等との連携でスケアードストレート(スタントマンによる実演)で自転車の危険性を学んだ (◎) ・「薬物乱用防止教室」の取組み実施 1 回、加えて学年集会でも注意喚起 (○) ・生徒指導部をはじめ教職員が生徒に対して寄り添いながら指導を行っている。自己診断(生徒)「生徒指導への満足度」肯定 62% (○) (2) ア・広報活動が必要。自己診断(生徒)「生徒会活動」肯定率 59% (△) ・ルールの守り方、自由とけじめなど、生徒が理解して行動し盛りあげることができた。文化委員が会議を行い、盛り上げることができた。自己診断(生徒)「行事の満足度」体育祭 85%、文化祭 86% (◎) ・1年生の部活動加入率 43% (△) ・小・中学校との交流を6クラブ、31 回 (○) ・日々の清掃に加え、大掃除もしっかりやっている。自己診断(生徒)「清掃活動を積極的に行う」82% (○) ・小津川自然啓発安全管理、信太山里山自然公園作業、浜街道まつり運営、泉大津市アートフェス等、ボランティア参加生徒9事業、84 名 (◎) イ・学年主任間会議において意見交流・振り返りを実施。クラスマッチ等を生徒主体で実施することでクラスでの意見集約などがスムーズに行えた。教員が生徒と関わり、活動の目的や目標を丁寧に伝えていく時間を増やしていくことで、生徒の主体性を育んでいく (○) ・生徒会、生活委員が朝のあいさつ運動を行い、啓発を行った。自己診断(生徒)「高校に入ってからあいさつするようになった」79% (○) (3) ア・人権講演会では外国人差別について熱心に学んだ。また、HR や学年集会でさまざまな課題について考えるとともに、日々の学校生活でも学んでいる。自己診断(生徒)「人権を学ぶ機会ある」90% (○) ・自己診断(生徒)「学校はいじめに真剣に対応」80% (○) ・人権講演会 1 回 (○)

府立泉大津高等学校

4 安全・安心を土台にした総合的な学校力の向上	(1)生徒が安全・安心に学校生活を過ごせる環境づくりの充実 (2) 校内組織・教職員集団づくり、働き方改革に向けた取り組みの推進 (3) 本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動の充実を図る	(1) ア・教育相談・支援委員会、支援教育コーディネーターを中心に、SC・SSW との相談体制を充実、定期的なケース会議を行い、保護者や福祉機関等と連携し、具体的な支援を行う イ・生徒一人ひとりへの支援とサポート体制を組織的に充実させる ウ・保健・安全指導を徹底して、事故防止の取り組みを進める ・熱中・感染症、交通安全、薬物乱用、防災の指導の徹底と外部専門家との連携を図る ・大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化し、安否確認等のために緊急ブログやE メッセージを活用する ウ・個人情報の適正管理と個人情報保護の精神を徹底する (2) ア・学年主任間会議を活用し、生徒育成の教育課程の円滑な実施と内容の継承・充実につなげる イ・教職員が主体的に教育活動ができる学校現場づくりを推進し、誰もが学校運営に向けた建設的な改善策や新たな取り組みを提案できる教職員集団づくりを推進する ウ・教職員の新たな学びを育成する校内研修の充実と校外研修への参加を促進し、センター研修を軸にした研究授業と校内共有研修を実施する ・人権研修を充実させ、すべての教職員が、より確かな人権意識を身につけて、教育活動を行う ・初任から 10 年めまでの育成体制を充実させる エ・教職員の多忙化解消に対応した分掌業務のスリム化を進める ・働き方改革としての分掌業務の精査 ・教員の負担感の軽減と経験の少ない教員への支援 (3) ア・中学校、保護者、教育関係者向けの情報発信のさらなる充実と緊急時の情報発信の充実 (E メッセージと緊急掲示板ブログ) イ・体験型の中・高・大 (専) 等多様な主体との交流・連携を進め、本校の魅力を発信する場とする	(1) ア・自己診断 (生徒)「気軽に相談に乗ってくれる」65%以上 [64%] ・自己診断 (保護者)「保護者の相談に適切に対応」85%以上維持 [85%] イ・各指導 1 回以上 [3 回] ・外部専門家活用 3 件以上 [4 件] ・自己診断 (生徒)「事件・災害発生時の行動の周知」の肯定率 79%以上にする。[78%] ・自己診断 (教職員)「事故、災害等に適切な対処ができる役割分担の明確化」80%以上 [73%] ・緊急ブログ、E メッセージの活用充実 ウ・校内研修 2 回以上 [4 回] (2) ア・自己診断 (教職員)「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」肯定 77% 以上 [76%] イ・自己診断 (教職員)「学校運営に教職員の意見が反映」74%以上 [73%] ウ・センター研修との連携による研究授業と協議の実施 ・自己診断 (教職員)「人権意識を高める指導を行っている」85%以上 [79%] ・経験の少ない教職員の育成 90% 以上維持 [94%] エ・業務内容の精選 ・学校休業日 (夏・冬期)、定時退庁日とクラブ休業日 104 日の完全実施 (3) ア・校長ブログ 100 回以上 [48 回] ・自己診断 (生徒・保護者)「学校 HP をよく見る」40%以上 [生 17% 保 35%] ・E メッセージ登録 90%以上維持 [96%] イ・中学校出前授業の 1 回実施 [1 回] ・多彩な学校交流 3 件以上 [7 件] ・学校説明会アンケート参加中学生の肯定意見 90%以上維持 [92. 6%]	(1) ア・SC、SSW は生徒の相談に適切に対応してくれ、支援の方向を示してくれる。教育相談・支援委員会、支援教育 Co を中心として、支援体制が充実している。自己診断 (生徒)「気軽に相談に乗ってくれる」70% (◎) ・自己診断 (保護者)「保護者の相談に適切に対応」86% (○) イ・AED 講習 1 回、避難訓練 2 回 (○) ・消防 (熱中症)、警察 (交通安全、スクエアドストレート)、警察・市役所 (交通マナー指導の際、一緒に通学路で指導)、少年サポセン (薬物)、福島県の被災者の方の講演等 6 件 (○) ・防犯・防災計画や危機管理マニュアルの周知、教職員の E メッセージの参加、安まちメール等の転送を実施。自己診断 (生徒)「事件・災害発生時の行動の周知」の肯定率 78% (△) ・自己診断 (教職員)「事故、災害等に適切な対処ができる役割分担の明確化」89% (◎) ・事件の注意喚起、学級閉鎖、災害等の際、緊急ブログ、E メッセージを活用した (○) ウ・校内、校外での失敗事例の際に校内研修実施 4 回 (○) (2) ア・各学年主任は生徒育成について協力して進めている。自己診断 (教職員)「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」肯定 79% (○) イ・組織的に相談しやすい体制ができている。自己診断 (教職員)「学校運営に教職員の意見が反映」75% (○) ウ・センター研修の受講者による校内研修の実施 4 回。授業充実研修を 8 月と 11 月に実施、ミニ研修、年度末振り返り等 (○) ・LGBTQ に係る研修を実施、教員から好評であった。自己診断 (教職員)「人権意識を高める指導を行っている」は 82%であったが、同「人権研修により課題のある生徒への理解が深まった」が 72%→82%と、教員の学びにつながった。(○) ・自己診断 (教職員)「経験の少ない教職員の育成」79% (△) エ・各学年、分掌で業務内容の精選を行っているところ (○) ・学校休業日 (夏・冬期)、定時退庁日とクラブ休業日 104 日の完全実施 (○) (3) ア・校長ブログ 130 回 (○) ・広報ができていなかった。自己診断 (生徒・保護者)「学校 HP をよく見る」生徒 22% 保護者 29% (△) ・E メッセージ登録 96. 4% (○) イ・中学校出前授業を 1 回実施、中学校との協議で学びを得た (○) ・授業連携 (泉大津市立中学校 3 校、和泉市立中学校 1 校)・探究 (大阪大学)・家庭科実習 (大調・辻調) 7 件 (○) ・生徒が説明や学校案内を行ったことで、熱心に参加してもらった。参加中学生のアンケート肯定意見 92. 1% (○)
----------------------------	--	--	--	---